

内科学〈腎・高血圧内科分野〉

担当指導医師

●本院

教授：旭 浩一

特任准教授：吉川 和寛

講師：河嶋 英里

助教：野田 晴也

助教：岡本 好生

学修方針（実習概要等）：

腎臓疾患・高血圧性疾患・腎不全患者の診療を、診療スタッフの一員として担当医とともに
行う。その中で、病歴聴取法、診察法、病態の把握、検査法、治療法など、医師として
必要な知識、態度、思考法を習得するように努める。

教育成果（アウトカム）：

円滑な臨床研修の開始に向けて医師としてふさわしい態度を身につけ、実臨床に根ざした
有機的な知識を修得するとともに、臨床的な思考能力、問題解決能力及びプレゼンテーシ
ョン能力を獲得する。

（ディプロマポリシー：1,2,4,5,6）

到達目標（SBOs）：

- * 1. 患者に礼節を持って接し、病態や心理を理解しながら問診や身体所見の診察をすることが
できる。
- * 2. 診療録についての基本的な知識を修得し、問題志向型医療記録(problem-oriented
medical record <POMR>)形式で診療録を作成しプレゼンテーションすることができ
る。
- * 3. 急性腎障害・慢性腎臓病（腎不全）の病態を評価し、保存的治療から急性血液浄化
療法を含む腎代替療法（透析・腎移植）までの治療方針を説明することができる。
- * 4. 体液量、水・電解質、酸塩基平衡の異常の病態を説明し、それぞれの治療を説明す
ることができる。
- * 5. 主要な一次性・二次性腎疾患の病歴と症候から診断に必要な検査計画を立案し、治
療方針を説明することができる。
- * 6. 腎生検の目的、適応、合併症、禁忌を理解し、検査手順を説明することができる。
- * 7. 症例に即して糸球体、尿細管間質、腎血管の病理組織像の主要な所見を示説するこ
とができる。
- * 8. 高血圧性疾患、腎血管性疾患の鑑別のための検査計画を立案し、それぞれの治療方
針を説明することができる。

実習内容：

1. 病棟診療グループを3週間、透析室診療グループを1週間経験する。
2. それぞれの担当医師とともに日常の回診ならびにディスカッションに参加する。

3. 病棟では2～3人の入院患者を受け持ち、回診カルテ記載、症例プレゼンテーション（入院時、総回診前）、退院時サマリー記載を行う。
4. 透析室では担当医師とともに全ての透析患者を把握し、個別の全身管理を研修する。
5. 腎エコー、腎生検、内分泌負荷検査、バスキュラーアクセス、ペリトネアルアクセス手術に積極的に参加する。
6. 外来診療を見学し、承諾の得られた患者の予診を行う。
7. 以下の医局行事に参加する。
入院症例カンファランス（毎日）、抄読会（1回/週）、腎病理カンファランス（1回/週）、透析症例多職種カンファレンス（1回/2週）（その他関連する学術講演会や研究会：任意）など。

授業に使用する機械・器具と使用目的
なし